

■第3回陸奥の国のまちづくりワークショップ 意見のまとめ ※ () カッコ内はグループ名

【テーマ】産業が進む道

| | 現況の問題点 | 将来のイメージ | 整備・保全・改善の考え方 |
|-----|--|--|--|
| 農林業 | <ul style="list-style-type: none"> ○熊、猿、鹿などによるレタスへの被害が拡大している(緑) ○人口減少、核家族化、少子高齢化などから世帯あたりの労働力が激減している(黄) ○後継者問題など農業を続けられないため、耕作放棄地が増えている(黄) ○大規模農業で機械を購入した農家は借金返済のために農業を辞めるに辞められない(黄) | <ul style="list-style-type: none"> ○農業、林業の活性化(青) ○魅力ある農業(青) ○これまでの「マイナス思考」を「プラス思考」に変える必要がある(緑) ○畜産業の大手の企業を誘致する(緑) ○林業のチップ工業を考える(緑) ○耕作放棄地を活用する(緑) ○従来から行ってきた農業を継続することができないため、少ない労働力に見合った農業を進めていく(黄) | <ul style="list-style-type: none"> ○下北でとれる農産物を活かす、研究する(青) ○後継者の育成方法の確立(青) ○農業加工業の活用(青) ○体験型の観光農業(青) ○若者が農業に関心が持てる仕組みづくり(青) ○農業と商業の連携を図り、地域のを地域で生産⇒配給⇒消費といったサイクルシステムを考える(緑) ○林業の活性化を図るため、間伐事業を活用する(緑) ○Iターン者など営農希望者が田畑を使えるような方策が必要(黄) ○雇用が少ない下北地域で働く場として、農業を活用できないか(黄) |
| 漁業 | <ul style="list-style-type: none"> ○漁業が衰退している(緑) ○良い浜があるが、水が汚い(緑) ○観光・レクリエーション面での漁業とのふれあいがあまりない(黄) ○漁業の後継者が不足している(黄) | <ul style="list-style-type: none"> ○漁業の活性化(青) ○魅力ある漁業(青) ○下北は漁業が第一(青) ○脇野沢には大手の水産企業を誘致する(漁業の工業化)(緑) ○漁業の株式会社化が必要である(緑) ○漁業権の問題はあるが、漁協と協力して、旅行者や観光において豊かな海、海産物を楽しめるようにする(黄) | <ul style="list-style-type: none"> ○漁業加工業の活用(青) ○漁業体験や、海、川などを一般開放して、漁業とふれあうことができないか(黄) |
| 商業地 | <ul style="list-style-type: none"> ○むつ地区のスーパーは明らかに過剰であり、体力勝負では地元企業が不利である(黄) | <ul style="list-style-type: none"> ○大型店舗と小型店舗の共存(青) ○現状以上に商業地を広げない(青) ○高齢者などが歩いてまわれる商業地(青) ○商業は、中央のように集まりやすいところに集まるのが一般的である(図中のA)(緑) | <ul style="list-style-type: none"> ○商業地に高齢者施設を整備する(青) ○映画館、インターネットカフェなど若者や自衛隊の職員が遊べる場所を整備する(青) ○まちづくり三法を活用し、旧田名部地区の中心市街地の活性化を図る(緑) |

| | 現況の問題点 | 将来のイメージ | 整備・保全・改善の考え方 |
|------------|--|---|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ○自動車を利用した商業地にならざるを得ない(緑) ○一定の制限を設けた商業地(黄) ○住民のニーズに応えた商業地を構築する(黄) | <ul style="list-style-type: none"> ○白地地域については、規制することも考えられる(緑) ○商業地域にある程度の規制をすることが必要(黄) |
| 工業地 | <ul style="list-style-type: none"> ○旧田名部川の砂防ダムで川の流れが悪く、水質が悪化しているので、湾の環境も考えるべきである(緑) ○湾の改良等を行う場合は、水質等の環境を考えてほしい(緑) | <ul style="list-style-type: none"> ○地元農林漁業の加工業としての工業地(青) ○原子力の保守等の原子力関係の企業を誘致すべきである(緑) ○関根浜の海洋観測船を下北埠頭に移動させる(緑) ○自衛隊を利用し、港湾を活用したいが、現状の港湾だと浅いので、浚渫等を行い大型船が入れるようにする(緑) ○むつ市は原子力産業を核として、産業立地を図る(黄) ○中小企業が個別に努力することにも限界があるので、同業者での協力体制を整えて、力を発揮できるようにする(黄) | <ul style="list-style-type: none"> ○最終処分場の整備(青) ○風力、水力、原子力発電の活用(青) |
| 観光 | <ul style="list-style-type: none"> ○下北は秘境が売りになっている(緑) ○大畑地区に宿泊施設がない(緑) ○道路整備が行われると観光客は、宿泊せずに通過してしまう(緑) ○新幹線の八戸-新青森間の開通が目前となっている(黄) | <ul style="list-style-type: none"> ○自然のままの観光地(青) ○観光地だけでなく「食」としてのむつ(青) ○下北の食材を利用した観光産業を育成していく(緑) ○宿泊客のターゲットを安いもの目当ての宿泊客から、良いのだと高くてもよいと思っている宿泊客に変える(緑) ○少年自然の家を観光施設として開放する(緑) ○あわび取り等のめったにできない体験を有料化する(緑) ○新幹線の開通に伴い、七戸十和田駅からの下北地方への観光客の滞在時間が長くなるようにする(黄) | <ul style="list-style-type: none"> ○食としてのむつの目玉をアピール(青) ○旧放牧地であった人切山を保全する(緑) ○JRの乗り継ぎや下北半島縦貫道路の早期整備により、交通の利便性を高めていく(黄) ○むつ市の特性を生かして田舎らしい田舎、自然を自然らしく整えていく(黄) |

| | 現況の問題点 | 将来のイメージ | 整備・保全・改善の考え方 |
|-----------------|--|--|-------------------|
| | | ○恐山、薬研温泉など個別の観光施設だけでなく、下北地域全域や青函を睨んだ広域的な視野にたった観光を提供する(黄) | |
| 産業のための交通 | ○むつ市の特産品があまり知られていない(黄) ○流通経路が限られているため、競争力が弱い(黄) | ○幹線となる道路は必要である(緑) ○公共交通の利便性を向上できる仕組みを考える(緑) ○むつ市を含めた下北地域の特産品(高原野菜、大間マグロ、イカなど)を中央市場に新鮮なまま運び、高付加価値産品として売り込む(黄) | ○下北半島縦貫道路の早期完成(黄) |

